

# ソーシャル・アントレプレナーとなることを 発心した若者たちの起業支援による 離島復興モデル 瀬戸内海の島が社会企業家たちを育む

「観光以上、移住未満！」

「週末は島へ！」

二拠点居住は  
むづかしいけど、  
週末待っただけなら！

1

## 移住をすることは 必須条件ではなかった！

姫路駅から1時間というアクセスの良さが強みとなっており、都心部に住む人が島で起業するにあたって「移住」は必須ではないことがわかった。

平日は  
戻ります

聞いてください  
週末島活

新しい魅力ですね



プロジェクト代表者  
いえしま起業支援チーム  
中西 和也



プロジェクトメンバー  
地域住民



誕生した担い手  
「週末島活」実践者

### 活動内容（兵庫県/助成金額550万円）

- ・ 事前調査（他地域視察、アンケート調査）
- ・ 週末島活のプロデュース
- ・ いえしまライフ。（島の魅力発信）

### 主な課題

- ・ 人口流出、少子高齢化

兵庫県姫路市に属する家島諸島は、産業の低迷から人口流出が著しく、少子高齢地域となっていた。そこで、島外に住む人が定期的に島を訪れ、自らの得意をいかして島に貢献する「週末島活」をプロデュースした。また、島内の若者とともにSNSやHPなどで島の暮らしの魅力発信を行う「いえしまライフ。」を実践し、子どもたちの選択肢を増やすことを目指した。

### 協力者

いえしまコンシェルジュ合同会社 / NPO法人いえしま / NPO法人大阪NPOセンター / NPO法人離島経済新聞社

「高校卒業したら島を出なくちゃいけないと思ってた！」



「教えてください！」

2

「上手な写真を撮りたい！」



## 得意を活かして「週末島活」!

移住はせず、週末だけ島で自分の得意を活かす「週末島活」を、都心部に住む若者が様々な形で実践した。カメラ女子ツアー、料理体験教室、そば打ち体験、島ライブなどの活動が行われ、島の魅力の広まり方が増えた。

「高校を卒業したら島を出る」というこれまでの当たり前に変化が起き始めた!

### 主な結果

- ・カメラ女子ツアー参加者\_35人
- ・料理体験参加者\_35人
- ・そば打ち体験参加者\_10人
- ・島ライブ参加者\_50人
- ・新プロジェクトメンバー\_7人

### 今後の計画

“週末島活”においては、カフェの運営をしながら実施することで必要な固定経費をまかない、“いえしまライフ。”においては、お土産物の販売などで得た事業費を活用し、参加費にて補填する形で継続していく。島の多世代に渡って協力体制を確立していきたい。

「おしゃれなカフェにいらっしやいませ!」



## 島の人も雇用したことで地域のコミュニティが広がった!

3

週末島活の1つであるカフェ「スコット」において島の主婦を雇用したことで口コミが広まり、これまでの客層が変化し始めた。島の未来を“自分ごと”として捉えられる人材を島内外に増やしていく第一歩となった。

### トヨタ財団より

プロジェクトのターゲットや手法を模索しながらの2年半でしたが、島内の若者の担い手が出てきたことは何より今後につながる成果ですね。今後どのように島の中に仕組みとして定着させていくかチャレンジに期待しています。

# 農福連携による互助のあるコミュニティの実現 都市郊外における農福連携ファームの開設

野菜って  
こっぴやって育んだ!

早く収穫  
できないうがな



プロジェクト代表者  
株式会社ナチュラルスタンス  
西東京農地保全協議会  
**岩崎 智之**



プロジェクト事務局長  
株式会社ユニココ  
西東京農地保全協議会  
**若尾 健太郎**



プロジェクトメンバー  
**地域住民**



誕生した担い手  
**コミュニティファーム運営者**

## 活動内容（東京都/助成金額515万円）

- ・ コミュニティファーム（まちづくり・遊休地活用）
- ・ 障害者就労支援
- ・ ノウマチ研究会（調査・研究）

## 主な課題

- ・ 障害者就労、少子高齢化、農地の活用

東京都西東京市には、福祉・教育・農業・子育て等のまちづくり課題があり、またその関係者より、農業体験・農園利用要望が多くあったが、市民のニーズを満たさできていなかった。そこで、農地という地域の有効資源を活用し、市民だけではなく、課題の当事者同士をつなぎあわせて、相互扶助の関係性を構築し、互いの課題を解決することを目指した。

## 協力者

株式会社ナチュラルスタンス / 株式会社ユニココ / 一般財団法人海外農業開発協会 / 中村農園 / 野坂農園 / 市民協働センターゆめこらぼ / 西東京市公民館 / 西東京市社会福祉協議会 / 社会福祉法人 森の会 / ヤギサワバル / 吉田 行郷（農林水産省 農林水産政策研究所） / 熊田博喜教授（武蔵野大学） / 小泉隆文 助教（東洋大学）

畑に入っても  
車いすでも  
入っていきな!

みんなが育てて  
みんなが収穫!



次は何を栽培しようかな？

## やりがい・いきがいの場を創出できた！

食を通じて地域を盛り上げたいと思っていた主婦が、当プロジェクトに関わることで地域との接点ができ、起業を決意した。また、引きこもりがちだった高齢者が地域社会とつながり、行動範囲が増えた。運営メンバーであるシニアや市民が、個々のやりたいこと、できることをコミュニティファームにおいて実現できた。

# コミュニティファームを増加！ 市民のニーズをみんなで満たす コミュニティができた！

### 主な結果

- ・コミュニティファーム「みんなの畑」オープン
- ・コミュニティファーム増加\_2ヶ所
- ・知的障害者への報酬増加\_1000円→1200円/時
- ・体制強化市民ボランティア増員\_2人→10人、1団体

### 今後の計画

今後も確立した体制で運営しつつ法人化を検討し、賛助会員制度を設け、事業者からの会費を徴収し財源の多様化を図る。コミュニティファームの研究も継続し科学的な根拠で自治体や企業との協働体制を構築することを目指す。その上で他市への展開を図り、他団体とのコラボレーションの中での運営を検討する。



## 知的障害者の就労の機会と可能性を拡大できた！

就労支援施設においては、クッキーづくりや資源ごみ回収などを行っているが、障害者のコンディションに左右されるため、収入源の多様化が求められていた。みんなの畑では、健康状態によって参加の可否を決めることができ、わずかながらの収入源の増加や、知的障害者の就労支援の機会をつくらせている。

### トヨタ財団より

縦割りをこえて多様な当事者がつながれるコミュニティファームという場が生まれたことは大きな成果だと思います。今後実践の成果を可視化する試みもしていきたいとのこと、可視化することで広がっていくことを期待しています。

# 地域の通いの場の担い手育成 松戸の介護予防を促進するコミュニティの力



プロジェクト事務局長  
特定非営利活動法人CRファクトリー  
**呉 哲煥**



誕生した担い手  
**コミュニティ創発者**

## 活動内容（千葉県/助成金額530万円）

- ・地域の通いの場を創発・活性化(担い手育成)
- ・継続的な仕組み作り(担い手のネットワーク)
- ・ロビーイング(検証、政策)

## 主な課題

- ・介護、高齢化

千葉県松戸市では平成37年に高齢化率が27.2%となり、要介護認定率も急増することが予想されている。また専門的なスキルを要する介護従事者の大規模な確保は困難であることから、政策としても「介護予防」に力点を置き始めており、その推進の先駆けとなる「松戸プロジェクト」を発足した。本事業は、松戸プロジェクトと連動しながら、介護予防に直結する地域の通いの場(コミュニティ)を創発・活性化できる担い手を育成し、担い手のネットワークを作ることによって継続的な地域の支え合いの仕組みを作ること、またその成果を数値的に検証し政策につなげることを目指した。

## 協力者

まつどNPO協議会 / 千葉大予防医学センター / 国立長寿医療研究センター / コミュニティキャピタル研究会 / 認定NPO法人たすけあいの会ふれあいネットまつど



1

## 相互協力・連携体制の構築ができた!

まつどNPO協議会をハブとして相互のネットワークを形成できた通いの場は50前後になった。また、生活支援コーディネーターとして各地の地域包括との連携体制を構築できた。担い手育成については、当初の想定だった個別支援よりも、面的なアプローチ・ネットワークづくりの有効性が高く、相互の学び合いを促進する方向で変化した。

## 介護予防に直結する 地域の通いの場をつくり ネットワークができた!

### 主な結果

- ・ 通いの場運営者交流会・勉強会参加者\_90人
- ・ コミュニティマネジメント連続参加\_25団体/32人
- ・ アンケート調査\_34団体/537人

### 今後の計画

プロジェクトを通じて、特に高齢者支援の行政担当課からの信頼度が向上し、助成終了後も継続してコミュニティ支援に関わる業務を受注できたので引き続き取り組んでいく。



役割をいっただいて  
地域づくりに参画!



## 2

## 松戸市内15地区でつながり 担い手の役割を つくることのできた!

ロビーイングの成果として、「地域共生社会づくり」のスキームの一環で、15地区の地域包括と連携しながら地域のつながりづくりのための実行委員会をファシリテーションする役割と、また介護予防を目的に取り組んでいる松戸プロジェクトについても、正式に事業パートナーとしてまつどNPO協議会で任命を受けることができた。

### トヨタ財団より

地域課題の解決に向けて、個別支援ではなく松戸市や大学等との連携を通じた面的なアプローチの仕組みづくりが出来たことが成果と捉えています。持続的な取り組みとなるよう、今後の自立化に向けた展開にも期待しています。

# 若者と動物の共生事業 困難を抱える若者と目指す「殺処分ゼロ」

殺処分  
ゼロのために  
担い手を！



プロジェクト事務局長  
困難を抱える若者と殺処分ゼロ推進委員会  
**守随 智子**



誕生した担い手  
**保護犬コーチ**

## 活動内容（愛知県/助成金額800万円）

- ・保護犬介在若者支援プログラム(実施・効果検証)
- ・効果検証事業
- ・イベント・広報啓発
- ・保護犬トレーナーの育成事業
- ・寄付システム開発事業

## 主な課題

- ・若者の就労、動物の殺処分

愛知県には、殺処分対象の犬猫が約 600 頭存在し、現状「殺処分ゼロ」の推進は主に個人ボランティアにゆだねられ、新しい仕組み作りが急務だと考えている。そこで県内に暮らす社会生活に困難を抱えた子ども・若者(約2000人)の「社会参画」と「殺処分ゼロ」の異なる社会課題を相乗効果によって、新たな支援策で解決するために本事業を実施した。

## 協力者

NPO法人ファミーユ / 株式会社アロマフォレスト / NPO法人再サガ愛知 / NPO法人ONESTEP / 名古屋動物愛護センター / 高岳動物クリニック / プーチーズ / 名古屋保護観察所 / 子ども若者総合相談センター / 名古屋北部・南部ステップアップ / 中部アニマルセラピー協会 / 黒田愛知県会議員 / くらし応援ネットワーク / はしたにクリニック / 千賀則史(臨床心理士)

野犬が  
人に慣れていけるように  
トレーニング...



活動継続のため  
グッズづくり...

イベントで  
販売しよう！



# 担い手「保護犬コーチ」誕生！ トライからの学びを活かし 収益・寄付システム開発へ！

## 主な結果

- ・ ふれあい訪問活動「みらい」\_12回
- ・ 保護犬トレーナー養成教育開催数\_15回
- ・ 保護犬トレーナー養成教育参加者数\_141人
- ・ 中日新聞掲載
- ・ 収益活動のため(社)メゾンドファミリーユ設立

## 今後の計画

ペットホテルやグッズのネット販売、施設入所など高齢化で飼育できなくなった飼い主から有料で引き取る等の収益事業を軸として活動しながら、ペット信託やアニマルセラピー効果の実証の報告会をおこなったり、イベントや啓発活動を通して「中間就労の場」「ふれあい事業」等の居場所として継続して実施していく。

保護犬コーチを目指して  
殺処分ゼロへ！

ニートから  
フリーターへ！



## 保護犬コーチ育成で 担い手9名誕生！

25歳ニートの若者がドッグトレーナーを希望しており相談を受けた。その後訪問活動で関係を築きつつ、手始めに老犬(猫)シェルターでのボランティア活動から開始。イベントやフェアの運営も担う事になり、保護犬(猫)の「里親向けペットホテル」のアルバイトスタッフまで成長した。今や団体にとってかけがえのない活動者の1人となった。

寄付システムをつかって  
継続可能な  
事業にしたいという...



2

## 今後の継続に向けて 学びを活かす収益事業展開！

プロジェクトに参加した若者が自活しなければいけない環境では活動継続できず、結局リタイアせざるを得なかったため、家族と同居など、生活できる環境が整った若者に限定されてしまった。その学びを活かし「寄付システムの構築」「収益事業」を軸に今後展開していく。



### トヨタ財団より

困難を抱える若者と保護犬とのマッチングにより、それぞれに変化が生まれたことが大きな成果だと感じました。今後も新たに立ち上げた団体の活動に期待しています。



# 地方都市において 性に関する問題を抱えた層の孤立を防ぎ 適切な情報及び支援体制を渡すことを 可能にするコミュニティ創設の実践



プロジェクト代表者  
TEAM AOMORI PRIDE  
岡田 実穂



誕生した担い手  
LGBTI当事者

## 活動内容（青森県/助成金額498万円）

- ・ LGBTI当事者の人材育成
- ・ 就労、就学支援
- ・ 相談事業
- ・ 政策提言

## 主な課題

- ・ 多様な性の理解

2014年に青森市に拠点を構えて以来LGBTIに関する活動を進めていたが、行政において「LGBTIのような人たちは市内には確認されていない」という答弁や、行政との話し合いの場において「青森は土壌が悪いから仕方ない」という発言があるなど、現実の問題として課題に向き合う姿は見られず、LGBTI当事者も諦めている状態にあった。そこで、性的マイノリティの人たちが孤立しないコミュニティをつくることで、当事者と関わる人たち自身が、個人の問題ではなく社会の問題として思いを共有できる地域づくりを目指した。

## 協力者

レイプクライシス・ネットワーク / 青森セクシャルマイノリティ協会虹色扁平足 / 青森レインボーパレード実行委員会 / NPO法人SANNET青森 / 駅前銀座商店街 / レインボーパレード熊本 / LUSH JAPAN / LUSH ELM店 / 各地のアクティビスト / 研究者の皆さん (Ging Christopherさん、Small Lukさん、山下梓さん、畑野とまとさん、東優子さん、日高庸晴さん、大藪順子さん、なたりーさん) / ばあばの店うさ美 / bar Amber / 鉄板女酒場どろぶね / 日本性教育協会

青森は土壌が悪いから仕方ない

都会よりも  
認知されていない

LGBTI当事者も  
孤立している



LGBTI当事者も  
孤立している

LGBTI当事者も  
孤立している

1

## 相談事業により 共に対応していく仲間が増えた!

相談事業や啓発事業を通して、青森市内のNPOなどとの繋がりが  
増え、それぞれの課題をシェアする中で、現実的にこのまちで何を  
していくかを定期的に話し合う関係が出来上がった。

「青森ではどうだろう？」  
「何が出来る？」という声が  
当事者から上がり始めた！

#### 主な結果

- ・ アンケート回答者\_200人
- ・ 人材育成対象者\_就労支援3人、ボランティア16人
- ・ メディア掲載\_新聞4社、雑誌5件、ラジオ1件

#### 今後の計画

LGBTIであることをカミングアウトすらしていなかった人が仲間を作って、恋愛をしたり、共に暮らし始めたり、青森で活動を続けていたり、青森市に確実に変化が起こっています。「自分らしく生きる」ことを応援してくれる地域のコミュニティを継続するために、様々な展開を考察中です

青森市にも  
こんなに  
人がいますよ



2

## LGBTIのリアルを政策提言！

青森におけるLGBTIの現状をウェブアンケートにて実施し、200件を超える回答を得ることが出来た。また、当事者に対してのインタビュー（10件）も実施、それらの情報を元に資料を作成した。資料作成が遅くなったため、2018年後半から青森市の行政職員や議員が参加（任意参加）の勉強会を開くなど政策提言に繋げている。教育委員会や男女共同参画センターなどへの配布や周知のお願いも実施中。

こんなに  
困って  
る人が  
いたのよ...

3

## 当事者を担い手に育成！

当事者が当事者と向き合うことの難しさを実感したが、この事業を通じてマイノリティたちがいると認識されるようになり、青森の当事者たちの顔が見えるようになった。いないと思っていた街の人も変わり、「一人だ」と思っていた当事者たちも大きく変わって行った。

思いを  
発信  
していき  
ますよ



青森で  
働きたい  
んですよ

#### トヨタ財団より

届かない声を拾い、届けるという丁寧な取り組みにより着実に地域が変化したこと、大きな成果だと思いました。当初の計画から変更したことも含めてどこによって立つかが明確だったからこそ変更だと思えます。今後も地域づくりあきらめないで取り組まれること期待しています。

# 潜在介護士が離れて暮らす親子を支える 高齢者の健康見守りサービス

体力キープできてます  
いい感じですよー

食事は  
バランス考えてます

運動もしてますー



プロジェクト代表者  
一般社団法人りぶらす  
**橋本 大吾**



受益者  
**要介護前の高齢者**



誕生した担い手  
**「シニアの家トレ」スタッフ**

活動内容(宮城県/助成金額838万円)

・介護予防

主な課題

・介護離職、介護うつ

石巻市は要介護者の増加が顕著な地域でありその子どもの負担が増えている。そこで介護が必要になる以前から、地域の高齢者の健康状態を見守ったり、介護について親子の相談を受けたりする人材を育成・派遣することで、家族の介護離職、介護うつの予防を図るサービスを実施した。また、要介護前の高齢者とその家族に向けたセミナーなど実施し、予防することの大切さを啓発した。

協力者

ベビースマイル石巻 / 一般社団法人 WIT / 花王株式会社 / おたからのわ"結"

今から準備できる  
ことはなんですかー

親子向け相談会

豊かな老後生活を  
みくりましょう



自分に介護が  
必要になる前に...

いざという時のために準備！  
課題の認識や  
対策の啓発に繋がった！



介護はプロの仕事です

自分が  
やらなければならない  
思い詰めては  
ダメですね

1

## 親子の間に第三者が介入し 思いを共有することで状況改善！

高齢になった親ができないことが増え、子がつい怒ってしまうことでそれに怯えますますますできなくなってしまう、という悪循環があった。育成したスタッフが第三者として介入し家族間の想いを共有することで、親と子それぞれの暮らしが豊かになることを実際のサービスから確認できた。

2

## 「シニアの家トレ」サービス！

これまでの訪問見守りや、介護に悩む人向けの相談支援、セミナーなどを通して、サービスの価値とポイントが分かった。サービスを「シニアの家トレ」と新たに整理し、オンラインによる介護レクチャーや相談も実施している。介護離職や介護予防に関する知識が不足していた石巻市において活動の認知度が上がり、予防することの大切さが地域に広まりつつある。



トヨタ財団より

試行錯誤されましたが、具体的な事例を通じて「仕事と介護の両立に関する考えが広まった」ことが成果と捉えています。取り組みを通じて地域に仕事と介護の両立ができる人材が増えていくことを期待しています。

2017年度

# 発信・提言助成

## 内陸部からの海ごみ発生抑制 地域から始める脱プラスチック社会への挑戦

流域面積  
流域人口の多い  
桂川が  
一番ゴミが多い！



1

### ペットボトルの デポジット制度に向けた 調査と提言

ポイ捨てだけの  
問題じゃない！



プロジェクト代表者  
特定非営利活動法人プロジェクト保津川  
**原田 禎夫**



提言・提案の対象  
**関西広域連合・亀岡市**

#### 活動内容（京都府/助成金額500万円）

海ごみ問題は、環境保全に対する市民の意識と社会制度の不備を反映した典型的な非点源汚染である。本プロジェクトでは、これまでの取り組みの成果を元に、海洋ごみ問題は海に面した地域だけではなく、内陸部も含めたすべての地域における共通の課題であるとの認識を、地域で共有し、海のない内陸部からの海洋ごみの発生抑制に向けた社会的仕組みを提案・構築するとともに、その成果を国内外に広く発信することを目指す。

#### 提言・提案の目指すところ

- ・ ペットボトルのデポジット制度
- ・ レジ袋の無償配布の禁止
- ・ 野外イベントでのリユース食器の導入支援
- ・ 環境教育、ICT教育におけるごみマップの活用

2

### レジ袋規制に関する 調査と提言

ハワイ・台湾で  
聞き取り調査！



具体的な方策を  
検討しよう！

# 2018年12月13日 「かめおかプラスチックごみ ゼロ宣言」の発表

## 1 マイバッグ持参率 100%の実現

国内初となるプラスチック製レジ袋の使用禁止を含むレジ袋の使用規制に関する条例制定や、マイバッグ持参率100%を実現する。また、その具現化のために、環境教育の一層の推進や「霧の芸術祭」などを通じた市民とアーティストとのコラボレーションによるオリジナル・マイバッグの制作・普及に取り組む。

## 2 リバー・フレンドリー・ レストランプロジェクト

米Surfrider Foundationが進める環境配慮型飲食店認証制度であるOcean Friendly Restaurantsとの提携を通じて、使い捨てプラスチック製品を使用しない市内飲食店を認証し、廃棄物削減を実現する。

## 3 いつでも、どこでも 亀岡の美味しい水 プロジェクト

保津川のごみの多くを占めるペットボトルの使用量削減にむけて「地域ができること」として、無料の給水機(ウォーターサーバー)を設置する。まずは市内公共施設から設置を進める。また、公共施設設置分については、お湯の供給も可能なものとして、哺乳瓶への給湯も可能とすることで子育て支援にもつなげる。

## 4 プラごみゼロで まちのしごと 応援プロジェクト

亀岡市は、石油化学関連産業のウエイトは小さい一方で、林業や紙・パルプ産業や繊維産業が市内経済に占める割合は小さくない。そこで、プラスチックごみゼロ宣言を契機として代替素材に関する「しごと」を地域内に創出し、市内経済の活性化に貢献する。

### 今後の計画

海洋へのプラスチックごみの流出の効果的な抑制のためには、亀岡市だけではなく流域での連携した取り組みが不可欠である。取り組みを通じて明らかになったことは、伝統的な地域組織が機能している上流部では、関係者の属人的な特性を活かしたネットワーク化が有効であり、一方、大都市部である下流部では社会的な制度・仕組みを活用したネットワーク化が有効である、という地域の特性の違いである。だが、異なる特性をもつ地域をつなぐ仕組みは自然発生的に成立するものではなく、たとえば地域の課題解決の取り組みの全国的、あるいは地球規模での価値づけ、あるいは政策的な投資(連携支援)が不可欠である。海から遠く離れた上流域の当地から行政区域を超えた河川環境保全や海洋プラスチック汚染に取り組むネットワークを構築することは、河川環境悪化の抜本的対策立案の観点からも意義深いことであり、今後も引き続き、積極的な取り組みを続けていきたい。

連携支援を  
検討していきましょう！

### トヨタ財団より

視察調査や、行政とともに作り上げてきた環境教育プログラムが開発され、「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」が発表されたことは素晴らしい成果だと思いました。引き続き、社会に普及・発信していく取り組みが展開されることを期待しています。

# 2017年度 しらべる助成



各事例の成果報告書は  
コチラから！

## 「声なき声」に支援を届ける 新たなアウトリーチ展開のための調査



特定非営利活動法人OVA  
伊藤 次郎

生活課題を抱えて支援が必要であるにも関わらず、支援につながらない子ども・若者の「声なき声」の分析を行うために、支援者へのウェブ調査とインタビュー調査を行った。得られた結果を外部の研究者の協力のもと分析し、「支援につながらにくい要因」を明らかにした。



## 効果的な市場導入手法の検証

副業を促進し福祉職就労基盤の強化を目指す



特定非営利活動法人  
きょうとNPOセンター  
中村 正

京都府内において、福祉現場への副(福)業導入を進めるにあたり、どのように政策設計を図ることで、「副業導入による文化的(慣例的)壁を効果的に乗り越えることができるか」について、委員会を形成し、「より効果的な市場導入手法の検証」を行った。

## ペット産業の社会的責任調査 ペットショップの社会的責任評価



特定非営利活動法人  
人と動物の共生センター  
奥田 順之

日本全国では犬猫が約4万頭殺処分されている。また、ブリーダーや飼い主による不適切な飼育が行われている現状がある。課題の解決には、生体販売の中心的プレイヤーであるペットショップがCSRに対する意識を高めることが必要との仮説のに基づきアンケート・ヒアリング調査を通じてCSRの取り組み状況について明らかにした。



## カイ猫をノラ猫にしないために 岡山飼い猫実態調査



NPO法人  
岡山ニャンとかし隊  
廣畑 佐知子

岡山県岡山市において「猫の終生飼養を支えるサービスの構築」の新事業を行うにあたり、猫を飼っている人がどのような意識をもっているか、またどのようなサービスを望んでいるのかを先進地視察やヒアリング調査で明らかにした。

## 空き家活用でつくる、持続可能な子育てママの活躍の場



特定非営利活動法人  
Cloud JAPAN  
村松 ももこ

宮城県気仙沼市において、子育てのママに対して子育てしにくい理由の現状把握をするため、アンケート調査を実施。アンケート調査を通じて、気仙沼市の地域における「子育てしにくい」理由を明らかにした。

## 森の棚おろし 地域優良材フェアトレード社会実験



兄弟木の駅会議  
丹羽 健司

愛知県岡崎市額田地域にて、地域の優良材(枝打ち材)の品質と量の賦存量調査を実施し、持続的供給可能性を算出した。その結果を踏まえ、木の駅、林業クラブ、森林組合、製材所、工務店が連携して、地域の優良材を正しく評価し流通させる手法「リタウッド」を確立した。



## 山業習得・山人養成学校 阿仁の山を最大限活かす技を学び山で生きる



一般社団法人  
大阿仁ワーキング  
松橋 悦治

秋田県北秋田市大阿仁地域という奥山に抱かれたマタギ発祥の地でもある豪雪地域での、山の恵みを活かした生業を学ぶ学校(山業学校)の開設可能性を探るヒアリング調査をおこない、ニーズや地域人材を明らかにした。



## 中学生の適材適所進路ナビ 進路情報のプラットフォームをつくる



Connections For Children  
水木 千代美

大阪府において、中高生、教員等へヒアリングを行い、中学生が進路選択にあたって置かれている状況を明らかにした。また、大阪府内の学ぶ内容や時間に特色のある17の高校の調査、在校生等へのヒアリングを実施し冊子にまとめた。



## 若者と地域の有力者をつなぐ 住民の実態調査を通じたコミュニティづくり



特定非営利活動法人  
ホールアース研究所  
福島事務所  
杉澤 莉子

福島県の中山間地域である湖南町において、地域活動に対してやる気のある若者の存在を可視化する調査を実施。アンケート・ヒアリング調査を通じて、地域のために活動したいと考えている若者の実態が明らかとなった。

## 中山間地域の農業を変える！ 農地とひとの新しいマッチング



雪の日舎  
佐藤 可奈子

新潟県十日町市を中心にママ農家20~80代にどんな子育てと農業をしてきたか、聞き取りやアンケート調査を実施し、しごと・こそだてを地続きにした農業の可能性を可能性を検討し白書にまとめた。





# 地域の 変化解剖録

トヨタ財団国内助成プログラムでは、これまで多様な人や組織の方々が手を取り合い、それぞれの力を持ち寄ることで地域課題の解決に取り組む活動を応援してきました。今回の企画では、これまでの助成事例の現場から見えてきた「地域が変化した転機」を、コミュニティに欠かせない「登場人物」を解剖しながらご紹介します！



## イベントや報告会に 必ず参加してくれる人

イベントや報告会を開催すると必ずと言っていいほど参加してくれる参加者。活動に対してもいつもポジティブなコメントをくれ、差し入れなどもしてくれる。



## メンバーをまとめる ボランティアリーダー

ボランティアの中で特に決めた訳でもないが、突然現れるボランティアリーダー！ボランティアの取りまとめを積極的に行ってくれる。



いぢあ  
お役に立てて良かったです

## 知識豊富な 年配者

活動に行き詰まった時や、困ったことがあると、長年の経験に基づく画期的なアイデアや、ノウハウを提供してくれる!



おっおっ  
(ナイスタイミング!)

## 空気を読む ちびっこ

侃々諤々の議論も、深刻な話題も、絶妙なタイミング泣き出すちびっこがいたらチャンス!子どもを中心に話をすると、時に利害関係も超えていける!



頼りなくて  
すみません

大丈夫!  
みんなが支えます

## 頼りないリーダーを支える 隠れリーダー

しっかり者のリーダーより、時に頼りなさを感じるリーダーの周りに人が集まることも。その陰には、そっと支えるしっかり者の「隠れリーダー」が居ます。



面白くなってきた!  
ワクワク!



## 自分事化しちゃった 行政マン

最初は担当業務で関わっていた行政の職員も、自分の暮らす地域の課題に会う中で、どんどん自分事化してきて…?気がつけば一個人として、活動を支える側に参戦!



## 面倒見のいい 社長さん

若者と触れ合ううちに地域の若い担い手を育てることが、地域企業にとっても大切な取り組みと感じた経営者。兄貴のような存在で若者たちを見守る存在に!



## ふとっばらな おっちゃん

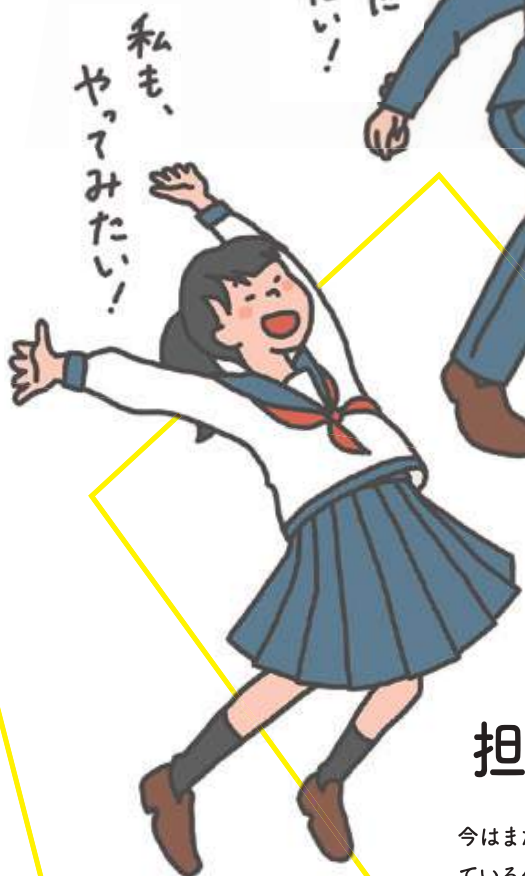
ふるさとを思う都会暮らしの地元出身者。活動の理念に共感し、ふるさとのためになればと寄付で応援。「君たちに賭ける」とサポーターへ!



みなさんの地域にも変化をもたらすユニークな登場人物は居たでしょうか？地域でプロジェクトに取り組む人も、これから取り組もうと考えている人にも、素敵な出会いがありますように！仲間と一緒に地域づくりを楽しんでくださいね！



大好きな故郷に  
恩返しをしたい！



私も、  
やってみたい！



年齢や性別、  
職業が  
ちがうから  
面白い！

### 未来の担い手を支える ナナメの存在

行政職員や企業の社員など、ちょっと(?)年上のお兄さん・お姉さんたちは、タテ・ヨコと共に「ナナメの存在」として、地域により丈夫な編み目を張り巡らせる！

### 未来の 担い手候補

今はまだ活動の「参加者」に留まっているケースも多いけど、のちのち「参画者」になる兆しも…? 「地域の未来は私たちが担う!」と立ち上がる!

# 2016・2017年度 助成を振り返って



国内助成プログラムでは、2014年度から「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ—地域に開かれた仕事づくりを通じて—」をテーマとして、地域の課題解決に取り組む事業とその担い手を育てることを趣旨に全国を対象として公募で助成（現「そだてる助成」）を行ってきました。

2016年度には、プログラムを見直し、新たに「しらべる助成」というカテゴリーを設けました。「しらべる助成」は、事業の本格実施に向けた調査および事業戦略の立案に対して助成を行うことを目的としています。地域の課題解決を実現するためには、まずは地域や取り組む課題、それに関わる当事者のことを知るという原点が大切であると考え設定したものです。

「しらべる助成」の助成対象となった団体の中には、当初「そだてる助成」への応募を検討されていたものの、当財団との対話を通じてまずは「しらべる助成」へ応募した団体もあります。そうした団体からは、「しらべたことで優先順位が明確になった」「調査で裏付けされたことが自信につながった」「調査の過程で世代を超えた課題共有ができた」といった意見も寄せられています。

市民活動において準備段階（課題や地域の現状を調べること、関係者と対話すること、ニーズを把握すること）の取り組みは、これまであまり重視されてこなかった印象もありますが、その後の活動を左右する重要なプロセスであると私たちは考えます。国内助成プログラムでは、こうしたメッセージを今後もプログラムを通じて伝えていきたいと思えます。

これまでに「しらべる助成」の助成を受けた団体は、52団体（うち20団体は2019年4月からスタート）に上り、6団体が「そだてる助成」の助成を受けて事業を進めています。調べたことがすぐに事業につながらないケースもありますが、取り組みを進める中で行政からの支援につながる、活動の参加者が増えるなど、調査と対話のプロセスが成果につながる事例が多数確認できています。

さらに、2017年度には過去の助成先に限定した「発信・提言助成」というカテゴリーも新設しました。助成先への聞き取りから、課題解決のためには社会の価値観や仕組みの変革に挑むフェーズも必要になることを実感し、これらの目的の達成をめざして過去の助成の成果を基に実施する政策提言・社会提案の活動に対して助成を行っています。初めての助成対象となった「プロジェクト保津川」（本誌38・39ページに掲載）は、2008年度に当財団の助成を受け、ごみマップの開発と住民参加の川ごみ調査を実施しました。その後、活動が広がり、「発信・提言助成」では行政と共にプラスチックごみの問題に挑み、亀岡市は2018年12月13日に「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を行い、日本で初めてプラスチック製レジ袋の使用を禁止する条例の制定をめざすことで大きな話題となりました。



今回発行する成果報告書は、現在の国内助成プログラムで実施している「しらべる助成」「そだてる助成」「発信・提言助成」の3つの助成カテゴリーにおいて、それぞれの助成対象事例を掲載する初めての機会となりました。「暮らしの場である地域社会では、地方／大都市圏を問わず、コミュニティの持続可能性の危機への対応が急務」という問題意識に基づくプログラムに対して、毎年全国より多数のご応募をいただいていることに感謝申し上げますと共に、このテーマの重要性がまだまだ高いものであると捉えています。日本社会が直面する課題を乗り越え、さらにはその在り方を問い直して新しい価値の提案や創造につながるよう先駆性や躍動感ある営みが全国各地で展開されることを期待し、本プログラムがその一助となることを願っています。



# 選考委員長よりメッセージ



立教大学教授 萩原なつ子

「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティ」をテーマとした助成プログラムがスタートした2014年は、日本創生会議が「消滅可能性都市」を発表した年です。日本の自治体のほぼ半数が消滅するとされたため、日本各地に衝撃が走りました。

少子高齢化が進み、地域が抱える課題は多様化する中、課題解決と持続可能なコミュニティの担い手として若者への期待が膨らみました。そのような社会的背景のもと、本プログラムは地域資源を活用し、着実に地域・社会に変化を生み出し、新しい価値を創造する”仕組みづくり”、“しごとづくり”に取り組む若者たちと地域のエンパワメントを目指し、支援を行ってきています。

本プログラムの特徴は、より地域の活性化や人材育成に資するように助成の枠組みを柔軟に変化させてきていることです。たとえば、2016年度には新たに地域のあるもの探し、課題発見を目的とした「しらべる助成」と実装段階の事業を支援する「そだてる助成」の二つの枠組みとし、また2017年度からは助成により得られた成果を社会に還元する事業を支援する「発信・提言助成」を設けました。今後も地域に暮らす多様な人々の持つ力を引き出し、未来可能性のある社会を創り出すための助成プログラムとして、社会状況や多様なニーズに応じた進化を期待しています。そして、活発な議論の末選考委員会で選定された多様性にあふれる、ユニークで、かつ先駆的な活動を展開する助成対象チームのさらなる飛躍を願っています。

最後になりましたが、かつてトヨタ財団アソシエイト・プログラムオフィサーとして国内初といってもよい市民の活動を支援する助成プログラムに携わってから、ほぼ四半世紀を経た2014年から5年間、当時の助成プログラムの流れをくむ本プログラムに選考委員長として関わらせていただいたことに対して、心より感謝の気持ちを表したいと思います。

# 担当者メッセージ



「担い手育成」というテーマで助成をはじめ3回目の成果報告書です。今回の報告書は「担い手」を可視化することに重点をおいてまとめています。改めて一人のヒーローを生み出すのではなく、多様な人の出番と関係づくりが地域を豊かにするのだと感じました。

## 喜田 亮子

現場を拝見できていないプロジェクトも多々ありましたが、書面からでもそれぞれの問題意識に基づいた試行的で先駆的な取り組みの魅力が十分に感じとらせていただきました。今後も魅力的な取り組みが全国各地で展開されるよう、それに応えられるプログラムを創っていききたいと思います。

## 武藤 良太

日常の活動と並行しての成果報告書の制作へご協力いただき本当にありがとうございました。皆さまのおかげで今年も素晴らしい報告書が完成しました！

## 石井 恵子

昨年トヨタ財団に入職して初めて成果報告書に関わるようになりました。プロジェクト開始時には、関わる事が出来ておりませんが現場のプロである皆さんの活動から学びや気づきが多く、それを今後の助成事業に活かしていきたいと思えます。

## 比田井 純也

今年も各地で活動を担う「担い手」の輪が多様な形でゆるゆると広がりをを見せていますね。個人的にはこの「ゆるゆる」が大切なかなと感じています。様々なヒントの詰まったこの報告書が、各地で頑張る多くの団体の手に今年も「ゆるゆる」と届きますように！

## 鷺澤 なつみ

 公益財団法人トヨタ財団

〒163-0437  
東京都新宿区西新宿2-1-1  
新宿三井ビル37階  
公益財団法人トヨタ財団 国内助成プログラム

TEL 03-3344-1701

FAX 03-3342-6911

MAIL [gp4ca@toyotafound.or.jp](mailto:gp4ca@toyotafound.or.jp)

URL <http://www.toyotafound.or.jp/>

発行

2019年8月

企画・デザイン

NPO法人Co.to.hana